

## 第 258 回 東工大の手島精一像と祐天寺の守屋善兵衛像

筆者：林 久治（記載：2023 年 12 月 2 日）

### （1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 10 月 28 日から 11 月 6 日まで大阪に滞在していた。その間、天候は良く暖かかったので、私は孫達とよく遊ぶことが出来た。また、予てから狙っていた銅像が近畿地方に沢山あったので、それらの幾つかを探索することが出来た。その探索記は次の通りである。箕面市の北原怜子像 ([253 回の記事/f](#))、京都市南区の長谷川繁雄・靖子夫妻像と松下幸之助像 ([254 回の記事/f](#))、東山区智積院の稚児大師像と玄宥僧正像及び上京区廬山寺の紫式部像 ([255 回の記事/f](#))、及び伊丹市の北野祐次像 ([256 回の記事/f](#))。

東京に帰ってからも、毎週末には運動を兼ねて銅像探索に行っていたが、しばらくは空振りの連続であった。11 月 24 日には、一橋大学の学園祭（一橋祭）を機会に磯野研究館の磯野長蔵像を探索しその探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。私は 2019 年 5 月 15 日に東工大の手島精一座像を探索し、その探索記を [91 回の記事/f](#) に記載した。本記事を書いている時に、同学の百年記念館に胸像があることを知った。本像は [1\) のサイト/](#) には収録されていない。そこで、12 月 1 日はその像を探索することとした。

また、その近くの祐天寺駅そばに守屋善兵衛像があり、本像は [1\) のサイト/](#) には収録されている。しかし、本像の写真は不鮮明であり、詳細情報も記載されていないので、本像もついでに探索することとした。本稿は、それらの探索記である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

### （2）東工大百年記念館の手島精一像

次ページの図 1 上に、東工大百年記念館の周辺地図を示す。本館は東急大岡山駅の東口前にある。本館の写真を図 1 下に示す。

（本文は、3 ページに続く。）



図1.  
上：東工大百年記念館の周  
辺地図  
下：百年記念館のビル。

[3\) のサイト/m](#)は、「東工大百年記念館のコンセプト～創立百年記念事業」を次のように説明している。

東京工業大学百年記念館は、本学が創立 100 周年を迎えた 1981 年、「東京工業大学創立百年記念事業」の一環として計画され、1987 年 11 月 1 日に開館しました。記念事業の検討はそれよりさかのぼること 13 年余り、1974 年に開始され長きにわたり具体案が練られた結果、建設地として正門脇の土地が充てられ、また建物の設計は篠原一男教授（当時）に委嘱されることが決定しました。本学同窓会の社団法人蔵前工業会が母体となり募金会（土光敏夫会長）が結成され、卒業生や関係企業から寄せられた基金によって事業が進められました。当時の募金趣意書には、百年記念館建設の目的として「科学・技術に関わる本学の業績の保存と展示を行い、東工大の遠き将来に向けての一層の発展のための一大モニュメントとする」ことが高らかに謳われています。



図 2. 百年記念館の玄関

図 2 には、百年記念館の玄関を示す。[3\) のサイト/m](#)によれば、本館は地下と 4 階のスペースに次のような設備がある。

1 階：ラーニング&インフォメーション・コモンズ「T-POT」（百年記念館の正門側のエントランスから入ると、天井の高い 1 階のスペースが広がります。ここは「T-POT」と呼ばれる自由度の高い空間で、学生や教職員がミーティング、イベントといった多様な活動を展開できるほか、企画展示なども行われており、大学の広報誌もここで手に取ることができます。）地階：2 つの特別展示室（入口正面にある G・ワグネル博士の解説パネル、2000 年にノーベル化学賞を受賞した本学卒業生の白川英樹博士のコーナーなど。）2 階：吹き抜けるを囲む 4 つの展示室（1881 年に設立された東京職工学校以来、130 年余りを経た東工大の沿革に関する資料や写真などが展示されています。）3 階：フェライト記念会議室と談話室。4 階：未来社会 DESIGN 機構拠点室。



図3.

上：2階の207号展示室、

下：207号展示室内の胸像。



本館の2階に上がると、そこには多数の展示室があった。図3には207号室を示す。そこは、「東京職工学校創設～新生東工大の発展」の展示室で、入口から1基の胸像が見えた。次ページの図4上左に、本像の写真を示す。図4下右には、本像背面の制作者サインを示す。それには「手島精一先生像 田嶋硯郎作」とあった。また、本像前に置かれた名刺の写真を図4下に示す。それによれば、本像の制作は1920年のようだ。



図4. 上左：手島精一先生像、上右：本像背面の制作者サイン、下：本像の名刺。

「田嶋碩郎」のネット記事は少ない。彼の殆どの作品が戦時供出で失われたのが原因らしい。そう言う意味でも、本像の存在意義は大きい。[4\) のサイト/2](#)に、次のような興味深い記事があった。

札幌の観光名所でもある北大クラーク胸像を制作した本当の作者を明らかにする著書が発刊され、美術界で注目されている。知られざる真の作者は、帯広・中島公園の依田勉三立像を作った彫刻家田嶋碩朗（たじま・せきろう、1878-1946）。戦後、別の彫刻家が作者として定説化していたため、田嶋の末娘山崎貞子さん（90）＝札幌＝が初の著作「彫刻家田嶋碩朗」で真相を究明、亡き父の功績に光を当てた。田嶋は明治、大正、昭和にかけて活躍。道内では、札幌大通り公園・聖恩讃仰塔（せいおんさんぎょうとう）など40基以上を制作した。しかし、多くが戦時下の貴金属回収令で撤収された不運な芸術家でもある。「BOYS BE AMBITIOUS」の文字が刻まれた北大クラーク胸像も同じ運命をたどった。クラーク博士は北大の前身・札幌農学校の象徴的な教育者。北大の依頼を受けた田嶋が1926年に制作したが、1943年戦争に供出された。作者の誤表記は、戦後の胸像再建がきっかけ。戦前の胸像のまま再現しようと、札幌独立キリスト教会に保存される田嶋の石こう原型を使い鑄造した。田嶋が他界したこともあり、監修として関わった別の彫刻家が作者のように誤って伝えられた。



図5. 田嶋碩朗の写真、本図は、[4\) のサイト/2](#)より借用。  
本サイトに、次のような田嶋氏の説明がある。

福井県生まれ。東京美術学校卒。明治天皇、大正天皇の用命を受けた制作も。海軍大将東郷平八郎から賞賛され、詩人室生犀星と親しかった。

なお、クラーク博士の銅像は札幌市・羊が丘展望台のものが有名で、[1\) のサイト/](#)には勿論収録されている。しかし、博士の銅像は北大をはじめとして札幌には沢山あるようである。[1\) のサイト/](#)には、札幌時計台2階にある博士像は収録されているが、その他の銅像は収録されておらず、銅像サイトとしては大変恥ずかしい限りである。また、「[クラーク博士の胸像で有名 彫刻家・田嶋碩朗（たじませきろう）展覧会 戦時中の難逃れた作品を展示](#)」と題する動画が、[5\) のサイト/c](#)で視聴できます。

[前回の記事/f](#)に書いたように、一橋大学では沢山の銅像が展示されている。それに反して東工大では、銅像は手島先生のものしかない。東工大では、外人教師では前述のG・ワグネル博士が有名であり、卒業生の白川先生はノーベル化学賞を受賞されている。これらの先生方の銅像が東工大に無いのが不思議である。兎も角、百年記念館の手島精一像の概要は次の通りである。

#### 手島精一先生胸像

設置場所：東京都目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学百年記念館 2階 207 展示室

制作者：田嶋碩郎（たじま・せきろう、1878-1946）、福井県生まれ。東京美術学校卒。

制作時期：1920年

設置経緯：手島精一（1850年1月11日 - 1918年1月23日）は沼津藩の江戸藩邸で生まれる。明治時代の日本の教育者、文部官僚。東京教育博物館（国立科学博物館の前身）および東京図書館（国立国会図書館の前身の一つ）主幹、共立女子職業学校（共立女子中学校・高等学校の前身）、東京職工学校、東京工業学校、東京高等工業学校（いずれも東京工業大学の前身）校長を歴任した。なお、田嶋碩郎の作品は戦時供出と戦災によるアトリエ焼失で殆ど失われているので、本像は現存している田嶋作品として非常に貴重である。

(3) 目黒区守屋図書館の守屋善兵衛像

私は東工大で手島像を探索した後、東急東横線祐天寺駅に廻った。本駅の周辺図を図6上に示す。



図6.

上：東急東横線祐天寺駅の周辺地図、

下：目黒区立守屋図書館の横に設置された胸像。



祐天寺駅から東横線に沿って南西に歩くと、約10分で目黒区立守屋図書館に到着した。その横に1基の胸像が設置されており、本像周辺に碑文が沢山あった。その写真を図6下に示す。敷地の前には、「東京都目黒区教育会館」との表示があった。

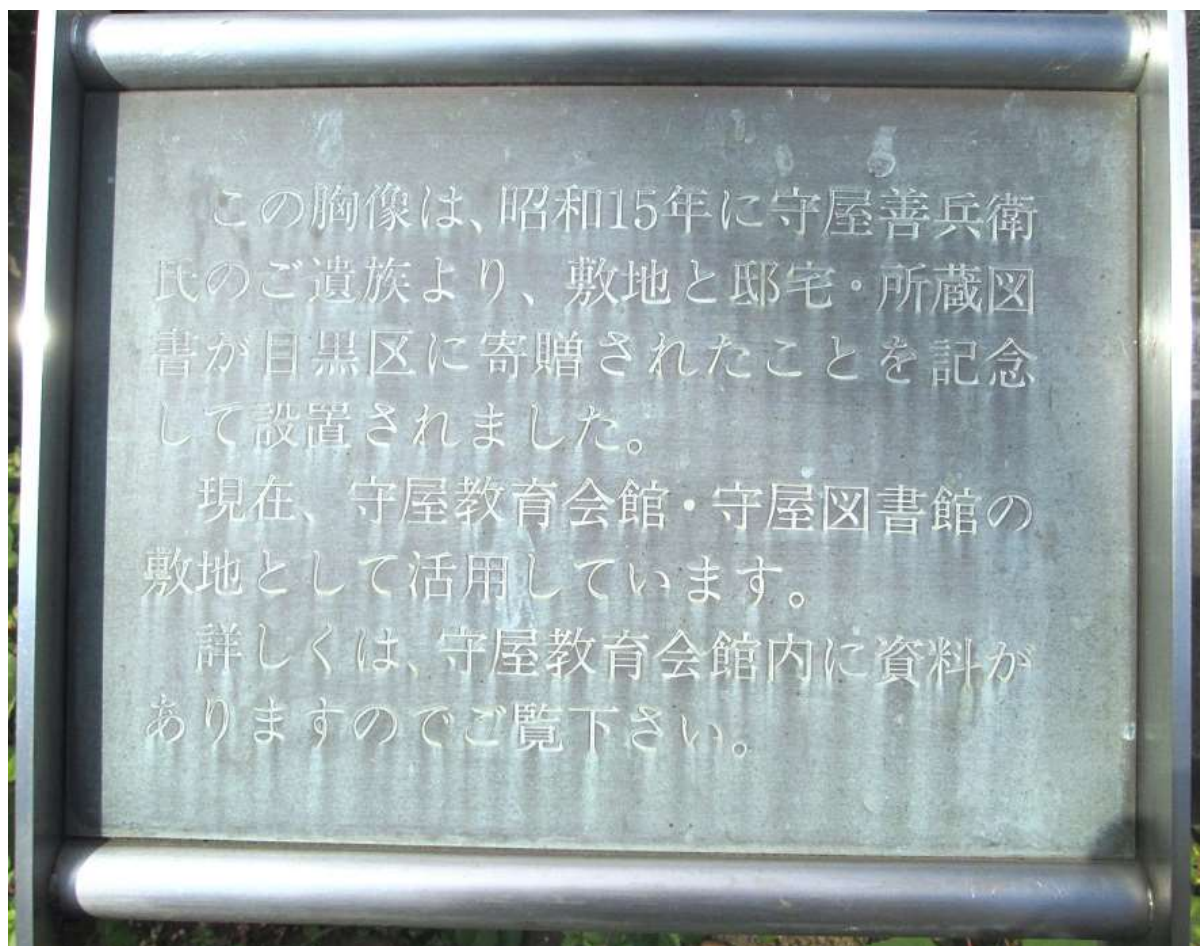


図7. 胸像前の掲示

本像の前には、図7のような掲示があった。それには、次のように書かれていた。

この胸像は、昭和15年に守屋善兵衛氏のご遺族より、敷地と邸宅・所蔵図書が目黒区に寄附されたことを記念して設置されました、現在、守屋教育会館・守屋図書館の敷地として活用しています。詳しくは、守屋教育会館内に資料がありますのでご覧下さい。

なお、[6\)のサイト/0](#)には、次の記載があった。

かつてこの場所には実業家の守屋善兵衛（1866～1930年）の洋風の邸宅がありました。昭和5年の没後目黒区に寄贈され、集会所などに活用されました。その後コンクリート製となり、郷土資料室なども併設しますが、これらは移転し、現在では同氏の姓を冠した図書館が設置されています。

上の記事より、守屋教育会館はどこかに移転しているので、「守屋教育会館内の資料」を見ることは出来ない。しかし、私は銅像探索後に図書館に行って、「何か資料があるかどうか」を尋ねてみた。

（本文は、10ページに続く。）





図8.  
上：守屋善兵衛氏の胸像、  
下左：本像台座正面の題字、  
下右：本像背面の制作者サイン。

図8上に守屋善兵衛氏の胸像、図8下左に本像台座正面の題字を示す。題字には「守屋善兵衛君像」とあった。図8下右に、本像背面の制作者サインを示す。それには「皇紀二千六百一年陽喜 嘉純作」とあった。「陽喜」とは春の意味であり、ウィキペディアには「横江 嘉純氏」の略歴が次のように書かれていた。

横江嘉純（よこえ・よしずみ、1887年5月 - 1962年2月14日）は、富山県保内村に出生。祖父も父も、同村の村長だった。小学校高等科を卒業後、絵画家を志すも挫折し、彫刻家に憧れる。京都の常楽寺で書生をしながら美術学校に学んだ。学校を特待生として1906年3月に卒業。その後、徴兵のため3年間入隊。兵役終了後東京美術学校（現東京芸術大学）へ入学し、1914年に彫刻科を卒業。数々の美術展で入選する。1929年には帝展審査員に任ぜられ、死去するまでこれを務めた。1930年から2年間、研究のためフランス、イタリアに渡欧した。



図9. 上：「守屋善兵衛君胸像記」裏の題字、下：「守屋善兵衛君胸像記」表の碑文。

守屋像の横に「守屋善兵衛君胸像記」と題する碑文があった。図9上に碑裏の題字、図9下に碑表の碑文を示す。題字には「紀元二千六百年記念」とあった。その下には、東京市目黒区長、目黒区議会議長、目黒区議会議員などのお歴々の氏名が刻まれていた。碑文表の原文とその書き下し文を参考資料の後（本稿 p. 12）に示

す。なお、原文とその書き下し文は、守屋図書館で見せていただいた本 ([7\) のサイト/1](#)) から借用した。

守屋善兵衛氏の略歴は[8\) のサイト/](#)などに記載されている。また、本像の動画は[9\) のサイト/s](#)で視聴できる。以上の資料などにより、守屋像の概要は次の通りである。

### 守屋善兵衛胸像

設置場所：東京都目黒区五本木 2-20-15 目黒区守屋図書館前

制作者：横江嘉純（よしずみ、1887- 1962）、富山県出身、東京美術学校卒業。

制作時期：1940 年春

設置経緯：守屋善兵衛氏（1866 年 1 月 25 日－1930 年 12 月 10 日）は岡山県小田郡大井村（現在の笠岡市）東大戸で出生。幼名・久太、本名・智行、号・亦堂、如郷。15 歳で上京、東京外国語学校等でドイツ語を学ぶ。のちに制度取調局御用掛・文部属を歴任。1894 年「日本衛生新報」を発刊する。この頃後藤新平の知遇を得て、台湾総督府衛生顧問付書記に就任。1898 年台湾新報と台湾日報を合同して台湾日日新報を経営。1903 年に欧米を視察。その後は満州日日新聞、満州の教育貯蓄銀行、東京動産火災保険などの重役を務めた。1940 年目黒区は、守屋氏遺族から宅地と住居の寄贈を受け、守屋記念館を設置した。その後 1952 年守屋図書館として開館した。（参考文献：「守屋善兵衛追悼録」守屋善兵衛追悼録編纂事務所、1936 年、「岡山人名事典」日本文教出版株式会社、1978 年、「人名辞典「満州」に渡った一万人」皓星社、2012 年）

### 参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
  - 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
  - 3) のサイト：<https://www.titech.ac.jp/public-relations/about/campus-maps/campus-highlights/museum>
  - 4) のサイト：<https://kachimai.jp/article/index.php?no=337442>
  - 5) のサイト：<https://www.youtube.com/watch?v=Wc-IYzq8yqc>
  - 6) のサイト：<https://ovanrei.hatenablog.com/entry/2020/05/24/220000>
  - 7) のサイト：  
<http://webcatplus.nii.ac.jp/webcatplus/details/book/2405505.html>
- 目黒区の図書館（目黒区立図書館創立四十周年記念資料集－創設の経緯を中心に－）、平成 5 年 3 月 31 日発行。
- 8) のサイト：<https://www.meguro-library.jp/data/moriya/>
  - 9) のサイト：[https://www.youtube.com/watch?v=HKC3z\\_jxZzs](https://www.youtube.com/watch?v=HKC3z_jxZzs)

次のページに、「守屋善兵衛君胸像記」の原文と書き下し文を記載しました。

「守屋善兵衛君胸像記」の原文（目黒区の図書館 p. 16）

守屋善兵衛君胸像記  
守屋君善兵衛小字久太諱智行號亦堂又如鄉備中国小田郡東大戸村人其系出於物部大連元和中守屋官兵衛者為備中八田郷士七世孫日彌作諱好智配目崎氏は為君考妣君以慶應二年一月二十五日生明治九年襲祖父名稱善兵衛是年出郷鬻入明志學舎專攻漢學十三年欲以醫立身來遊東京學外國語學校及獨逸協會學校十六年勗歐亞學館明年受太政官令翻譯獨書尋為諸官省囑託譯出獨書數十部此間刊行衛生新聞又效力大日本衛生會為其常務員二十六年出仕内務省亡幾轉陸軍省似島檢疫所之設也所長兒玉源太郎事務官長後藤新平二公日夜勗精效果大揚而立案骨子皆係君譯出焉三十一年兒島公任臺灣總督後藤公為民政長官君受其懇憑創臺灣日日新報為其社長拮据經營大資臺灣統治居十餘年漫遊歐米視察其政教所得不鮮四十四年以南滿洲鐵道株式會社囑為滿洲日日新聞社長大正二年改組織以鞏社礎五年辭職歸京君又覃思產業振興推為諸會社社長取締役者數矣十二年五月新築一洋館於此地四邊皆田園加以道路狹隘交通甚不便君及獻私有地於官率先垂範以努其開發昭和五年十二月十日獲疾以歿享年六十有五法諡曰智行院文光拓績亦堂居士君稟性謹厚識趣明敏尤篤友誼好提撕後進後進賴以成名者頗多其處事真摯至死不變更以弘公益開世務為己任其功豈可沒耶夫人須永氏下野佐野人其兄元君以志士稱夫人天資貞淑多內助功去年丁紀元二千六百年官舉其式典夫人有所感與嗣子時郎君謀舉邸宅贈目黒區以顯君遺志因經區會議決受之名曰守屋記念館廣供公用今特製其胸像立之庭園併勒行履梗概以諗後人云

「守屋善兵衛君胸像記」の書き下し文（目黒区の図書館 p. 16-17）

守屋善兵衛君胸像記

守屋善兵衛君、小字は久太、諱は智行、號は亦堂又は如郷、備中の国小田郡東大戸村の人。其系、物部大連より出す。元和中、守屋官兵衛、備中、八田の郷士為り。七世の孫を弥作と曰う。諱は好智。目崎氏と配す。是、君の考、君の妣為り。以って慶應二年一月二十五日生、明治九年祖父の名を襲ぎ、善兵衛と稱す。是年郷鬻を出て、明志学舎に入り、漢学を專攻す。十三年、醫を以って身を立てんと欲し、東京に來遊し、外国語学校、及び獨逸協會学校に学ぶ。十六年歐亞学館を勗め、明年太政官を受け、獨書翻譯の尋を命ぜられ、諸官庁の囑託と為り、訳出する獨書数十部なり。此の間衛生新聞を刊行し、又、大日本衛生会に力を效す。其の常務員と為る。二十六年内務省に出仕し、幾亡して陸軍省に轉じ、似島檢疫所の設也、所長は兒島源太郎、事務官長は後藤新平の二公なり。日夜精勵し、効果大いに揚ぐ。而して立案の骨子は皆、君の譯出に係る焉。三十一年兒島公は臺灣總督に任じられ、後藤公は民生長官と為る。君其の懇憑を受け、臺灣日日新報を創め、其の社長と為る。經營に拮据し、大いに臺灣統治に資す。居ること十餘年。欧米を漫遊し、其の政・教を視察す。得る所、鮮からず。四十四年南滿洲鐵道株式會社囑を以って、滿洲日日新聞社長と為る。大正二年組織を改め、以って社礎を鞏む。五年職を辭し歸京す。君又、産業の振興に覃思し、推されて諸會社の社長・取締役と為るもの數矣。十二年五月、一洋館を新築す。此の地に於る四辺皆田園にして、加うるに、道路狹隘なるを以って、交通甚だ不便なり。君乃、私有地を官に獻じ率先垂範、以って其の開發に努む。昭和五年十二月十日、疾に獲り、以って没す。享年六十有五。法諡は「智行院文光拓績亦堂居士」と曰う。君稟性謹厚、識趣明敏、尤も友誼に篤く、提撕を好み、後進・後進、賴り以って名を成す者、頗る多し。其れ事を処するに真摯、死に至るも変えず。常に以って公益を弘め、世務を開くを己の任と為す。其の功、豈没すべけん耶、夫人は須永氏、下野の佐野の人なり。其の兄元、君を以って志士と稱す。夫人、天資、貞淑、内助の功多し。去年紀元二千六百年に丁り、官其の式典を挙ぐ。夫人、感ずる所有り、嗣子、時郎君與謀り、邸宅を挙げて目黒區に贈り、以って君の遺志を顯す。因

って区会の議決を経て、之を受け、名を守屋記念館と曰う。広く公用に供し、今、特に其の胸像を製し、之を庭園に立て、併せて行履の梗概を鞞し、以って後人に諗云そ。

昭和十六年六月

[上記碑文の漢字の読み方と意味]

鬻（こう）：まなびや／学校などの意味をもつ漢字。25画の画数をもち、黄部に分類される。

翺め（はじめ）：はじめる。はじめ。＝創

効す（いたす）：いたす。尽力する。

鞞む：かたむ

覃思（たんし）：ふかく思う